

新しいまちづくりの基本方針

1 まちづくりの基本理念と新市の将来像

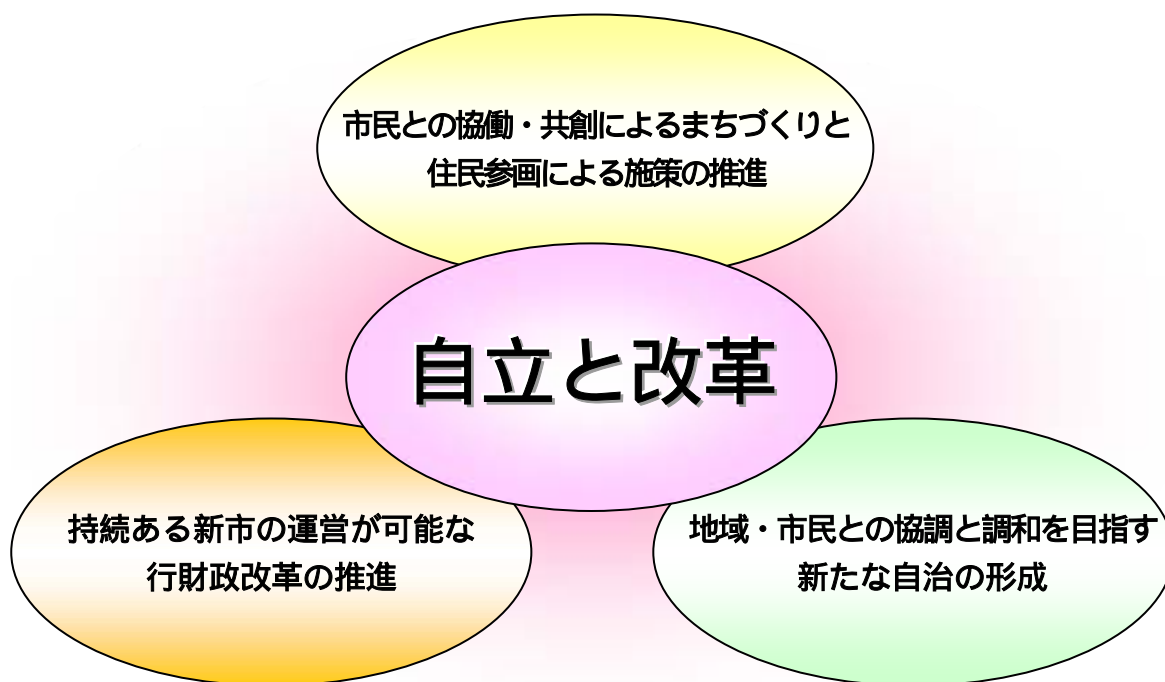
1) 基本理念

関市は、東西交通の要衝かつ文化の交流点であり、地域資源を「技」と「匠」に活かし、独自の産業文化を育て発展してきました。また、東海北陸自動車道と東海環状自動車道の結節点であり、日本のほぼ中心という立地条件を活かし、『心豊かで活力ある交流文化都市』として、力強い施策をこれまで進めてきました。

そして、緑と清流豊かな自然環境に満ちた洞戸村、板取村、武芸川町、武儀町、上之保村と共に連携し、一体となって、新市を創造していきます。

新市は、地方分権時代に対応する自主自立の都市の構築を目指すものであり、「市民との協働・共創によるまちづくりと住民参画による施策の推進」、「持続ある新市の運営が可能な行財政改革の推進」、「地域・市民との協調と調和を目指す新たな自治の形成」による自立と改革を図ることを基本理念とします。

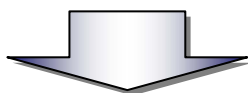
まちづくりの基本理念



2) 新市の将来像と基本方針

新市は、長良川、板取川、武儀川、津保川などの清流や緑豊かな自然を守り育て、住む人と地域の自然が調和し共生するまちづくりを進めるとともに、日本のほぼ中心に位置し、東海北陸自動車道と東海環状自動車道の結節点であるという地域ポテンシャルを活かしながら、人・物・情報がいきいきと交流する活力溢れる都市像を目指します。

また、市民だれもが安心して住み続けることができ、うるおいある快適なまちづくりを進めるため、次の基本方針により、いつまでも安住できる新市の施策を展開します。



< 新市の将来像 >

水と緑の交流文化都市

～ときめき・きらめき・いきいき・せきし～



< 新市の基本方針 >

健康で長生きできるまちづくり

便利で安全に暮らせるまちづくり

活力ある地域産業のまちづくり

快適な環境とるおいのあるまちづくり

豊かな心を育む文化のまちづくり

住民参画による協働のまちづくり

地域ポテンシャル

その地域が有する潜在的な能力、発展可能性のこと。

2 新市建設の戦略プロジェクト

「戦略プロジェクト」を、合併の不安を取り除き、合併効果を高める重点施策群として設定し、新しいまちづくりと新市の一体化を図る施策として、その戦略的推進を図ります。

『新市一体化促進プロジェクト』

【目的】

市民が等しく都市機能を楽しめるよう、旧市町村間を結ぶ道路網や地域間の連携ができる社会基盤の整備を推進します。また、全市が一丸となって取り組むイベント等を開催し、新市の早期一体化を推進します。

【主要な施策】

旧市町村間を結ぶ連絡道路の積極的な整備
(寺尾坂、志津野～八神)
市中心部と地域を直結するコミュニティバス等の交通機関の拡充
高度情報化社会に対応する情報基盤整備の促進
全市一体となった各種イベントの開催
東海環状自動車道や国道248号バイパス整備などの広域基幹道路の整備促進

『住民の健康と長寿社会を創造するプロジェクト』

【目的】

市民だれもが生涯を通じていきいきと活躍できる地域づくりを進めるとともに、地域の特性を活かしながら、温かい人の交流と心豊かな地域社会を形成します。また、長寿社会づくりに向けた市民健康づくりを積極的に推進します。

【主要な施策】

市民健康づくりの推進
長寿社会づくりに向けた保健事業の充実
ふれあいセンターなどの生涯学習拠点施設の整備
少子社会に向けた児童福祉施策の充実
高齢者の生きがいづくりと高齢者福祉の充実
板取川温泉や武芸川温泉ゆとりの湯及び上之保温泉ほほえみの湯の活用と板取地域の自然を活かした保養所の整備
余暇を活かす体育レクリエーション活動の推進
(洞戸地域河川運動公園の整備、武芸川地域西ふれあいの広場の整備、スポーツイベントによる交流の促進)

『活力ある産業都市創造プロジェクト』

【目的】

先端産業の立地促進と、地域に根差した力強い産業形成を図り、躍動と活力に満ちた都市の構築を目指します。また、就労の場を確保し、安定した社会基盤を築きます。

【主要な施策】

関テクノハイランドへの企業立地促進
関ロジスティクスセンター整備事業の促進
中心市街地活性化プロジェクトの推進
(西本郷一ツ山線の整備、関駅周辺地区の整備)
まちづくり交付金事業の推進
地場産業の支援
交流産業・観光の推進

『自然とともにうらおう環境を創造するプロジェクト』

【目的】

水と緑に恵まれた自然の恩恵を守り育て、快適な生活環境を享受できるまちづくりを推進します。また、自然との共生を通し、快適で安全な地域づくりを進めます。

【主要な施策】

親水空間整備
(板取川温泉及び保養所と一体となった親水総合公園の整備、(仮称)富之保公園の整備)
グリーン購入、ISOの定着化等環境マネジメントの推進
地域防災体制強化プロジェクトの推進
(防災無線の整備、耐震性貯水槽の整備、雪害対策)
下水道の整備
清らかな長良川、板取川、武儀川、津保川と豊かな山林資源の整備及び保全

戦略プロジェクト	特定目的を達成するための計画であり、必要な施策と事業で構成される。
関テクノハイランド	高付加価値を持ち社会環境に対応した将来性のある先端技術産業の集積を目指した工業団地。開発面積 76.40ha、分譲面積 31.16ha で関地域下有知地区（のぞみヶ丘）に予定。
関ロジスティクスセンター	国土交通省から全国で初めて指定された「道路一体型広域物流拠点整備モデル事業」。トラックターミナル、インランドデポ（内陸通関基地）などの物流拠点施設を関地域富野地区に整備予定。
グリーン購入	公共団体や消費者グループなどが、環境に配慮した商品を優先購入すること。
ISO	[International Organization for Standardization=国際標準化機構の略] 日本工業標準調査会が加入している国際的な単位・用語、工業規格などの標準化を推進する機構。最近では、運用やソフト的な規格についても定めるようになってきた。環境に関する規格は ISO14000 シリーズと呼ばれ、組織が環境方針を実施、達成、見直しを行うマネジメントシステムに係る規格となっている。
環境マネジメント	地球の環境問題が大きな課題となる中で、環境保全に向け、日常生活や企業の活動・経営において、ISO 等の国際規格に基づいた管理を行うこと。

3 地域別整備方針

地域が持つ魅力ある特性と可能性を活かし、高度化する都市機能を分担し、互いに補完しながら新市全体の発展を目指します。また、それぞれの地域が抱える課題や住民ニーズに対応するため地域を区分し、計画的な整備を図ります。

先端技術産業が集積する工業団地・高速道路網・商業施設・高度医療機関など、新市の生活拠点施設や都市的機能の充実を図る関・武芸川南部地域。人と美しい水・壮大な自然との共生及び交流機能の進展を図る洞戸・板取・武芸川北部地域。緑豊かな環境の中で高機能な教育・住環境の整備を目指す武儀・上之保地域。それらの多面的な機能を活かし、互いの魅力を同時に引き出しながら、相互補完による新しいまちづくりを推進します。

1) 地域区分と整備方針

(1) 関・武芸川南部地域：交流文化拠点ゾーン

整備方針：新市の経済・生活拠点として、地域の原動力や活力を生み出す核的機能の充実を図り、総合的な都市機能を有したまちづくりを行います。

関地域では、新市を支える経済・産業基盤の集積地として、新しい産業と古き伝統産業が活きる複合・多角的産業文化地域を構築します。

多くの市民が安心して働くことができ、専門医療や複合的な商業施設など高度な住民サービスを提供する生活拠点地域として、地域の資源を積極的に活用しながら、新市の核的機能の充実を図ります。

また、広域的な交通体系の整備（高速道路網と広域基幹道路）を推進し、病院・救命救急体制の確保、賑わいある商業の発展、新規雇用の創出など、新市全体の活力を創造する施策を展開します。

さらに、武芸川南部地域においては、関地域と一体となった居住環境のさらなる整備に努めます。

関・武芸川南部地域	合併前の関市及び武芸川町寺尾地区以外を指す。
洞戸・板取・武芸川北部地域	合併前の洞戸村・板取村及び武芸川町寺尾地区を指す。
武儀・上之保地域	合併前の武儀町及び上之保村を指す。

(2) 洞戸・板取・武芸川北部地域：自然や文化との共生交流ゾーン

整備方針：市民に豊かな自然環境を提供するレクリエーション機能の充実と、新市の観光・交流拠点の充実を図ります。また、人と自然が共生する住環境を整備し、郷土文化が薫る暮らしづくりを推進します。

新市の北部に位置する洞戸・板取地域では、豊かな水と緑に恵まれた自然環境を整備・保全するとともに、雪害などの自然災害に強い体制を確立し、人と自然が共生できる豊かな地域をつくります。

また、洞戸地域高賀地区の清らかな自然や郷土文化を活かした癒しの回廊づくりと板取地域川浦地区の荘厳な原生自然環境の魅力を発信し、温泉資源・健康づくり・アウトドアを媒体とした体験型・滞在型観光の基盤を充実するとともに、武芸川北部地域の寺尾ヶ原千本桜公園の一層の整備を進めることによって、新市住民はもとより、圏域外の人が多く訪れる、レクリエーション・憩いの拠点地域として整備を推進します。

さらに、市中心部と気軽に人が往来できる交通・情報機能の充実を図るとともに、交流を促進するイベントを積極的に開催します。

(3) 武儀・上之保地域：緑の生活文化ゾーン

整備方針：恵まれた自然・緑を活かした居住空間の整備と文化教育機能の充実を図ります。

新市の東部に位置する武儀・上之保地域では、自然と教育を結びつけることにより、高度な居住空間の創造を進めるとともに、質の高い教育体系を構築し、豊かな人材を育むまちづくりを推進します。

自然との体験学習機能の推進や教育改革の先導的モデル校となる全寮制の県立中等教育学校の整備、武儀地域における小学校及び中学校の一体的整備事業の実現など、人を創る教育の充実を図ります。

また、農林業の後継者育成と新しい高付加価値の農業体制の確立、農業教育先進地としての機能充実に向けた楽しく農業学園事業を推進します。さらに、木の温もりと地域の木材を暮らしに生かす住宅産業や椎茸などの林産物を奨励し、地域固有の森林資源を活用した産業を育成します。

2) 新市のグランドデザイン(地域のゾーニング)

新市においては、各地域の均衡ある発展を図るとともに、地域資源と特色を活かしたまちづくりを推進し、連携と相互補完により新市全体の活性化を目指します。

また、これまで各地域が積み重ねてきたまちづくりの方向性を尊重し、そこに暮らす住民の継続的な営みを守るとともに、安定した暮らしづくりを推進します。

【新市におけるまちづくりのイメージ】

水と緑の交流文化都市

～ときめき・きらめき・いきいき・せきし～

